

トレスルホンTDF[®]から トレライトHDF[®]への切り替え における臨床データの比較

●松下剛史1)、桐林慶1)、上森優子1)、藤井恵子2)、沖永鉄治2)、山田有美2)、金井亮2)、倉脇壮2)、高杉啓一郎2)、正木崇生3)

1)クレア焼山クリニック、2)博愛クリニック、3)広島大学病院腎臓内科

目的

間歇補充型血液透析濾過(以下、I-HDF: Intermittent Infusion Hemodiafiltration)において、東レ社製トレスルホンTDF[®]からトレライトHDF[®]への膜変更における臨床的有用性を検討する。

対象

当院で維持I-HDF中の患者24名。

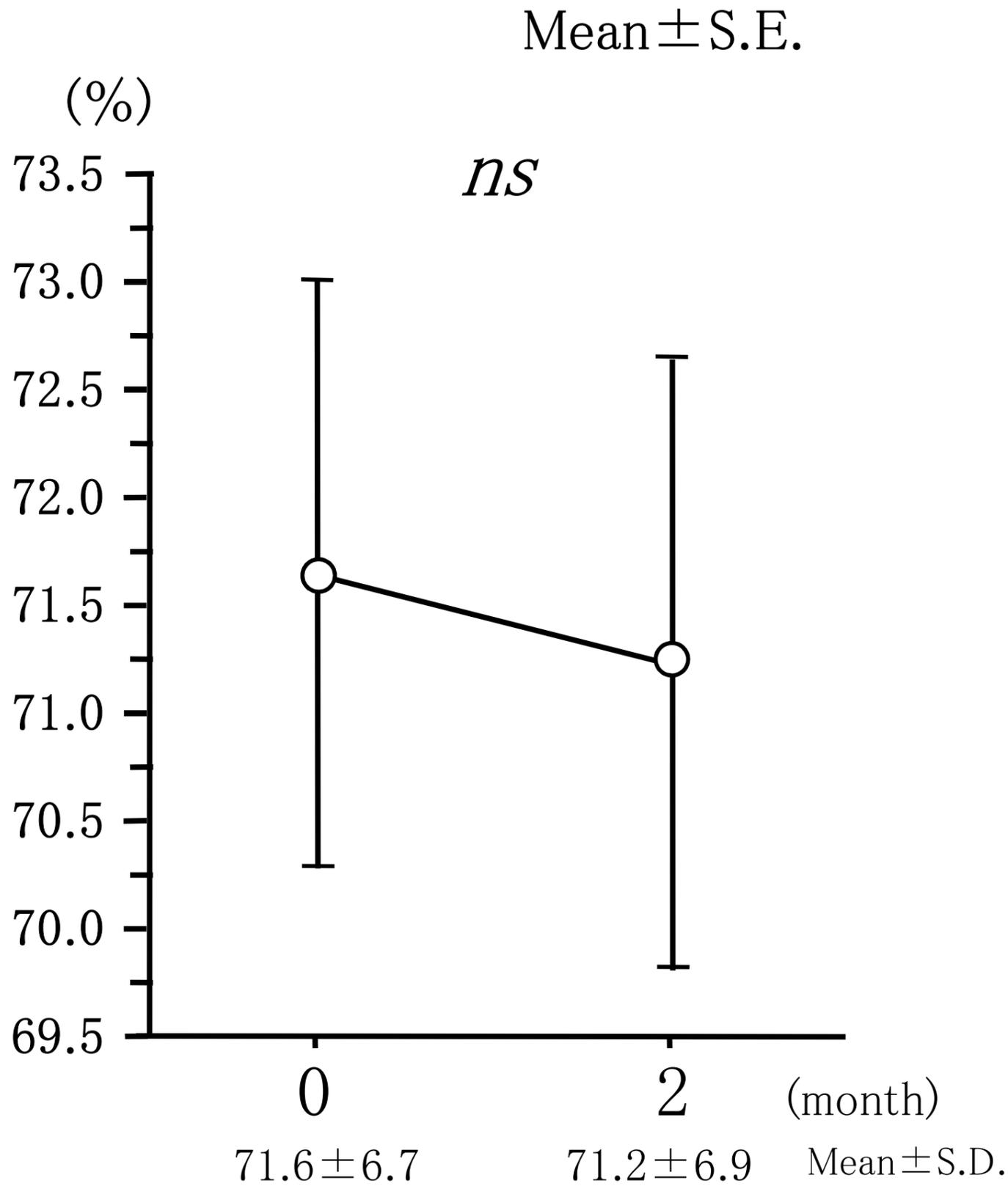
男/女(人)	: 18/6
年齢(才)	: 71.2 ± 9.3
透析期間(年)	: 8.0 ± 6.0
DW(kg)	: 60.1 ± 13.8
GNRI	: 95.3 ± 5.6

(Mean ± S.D.)

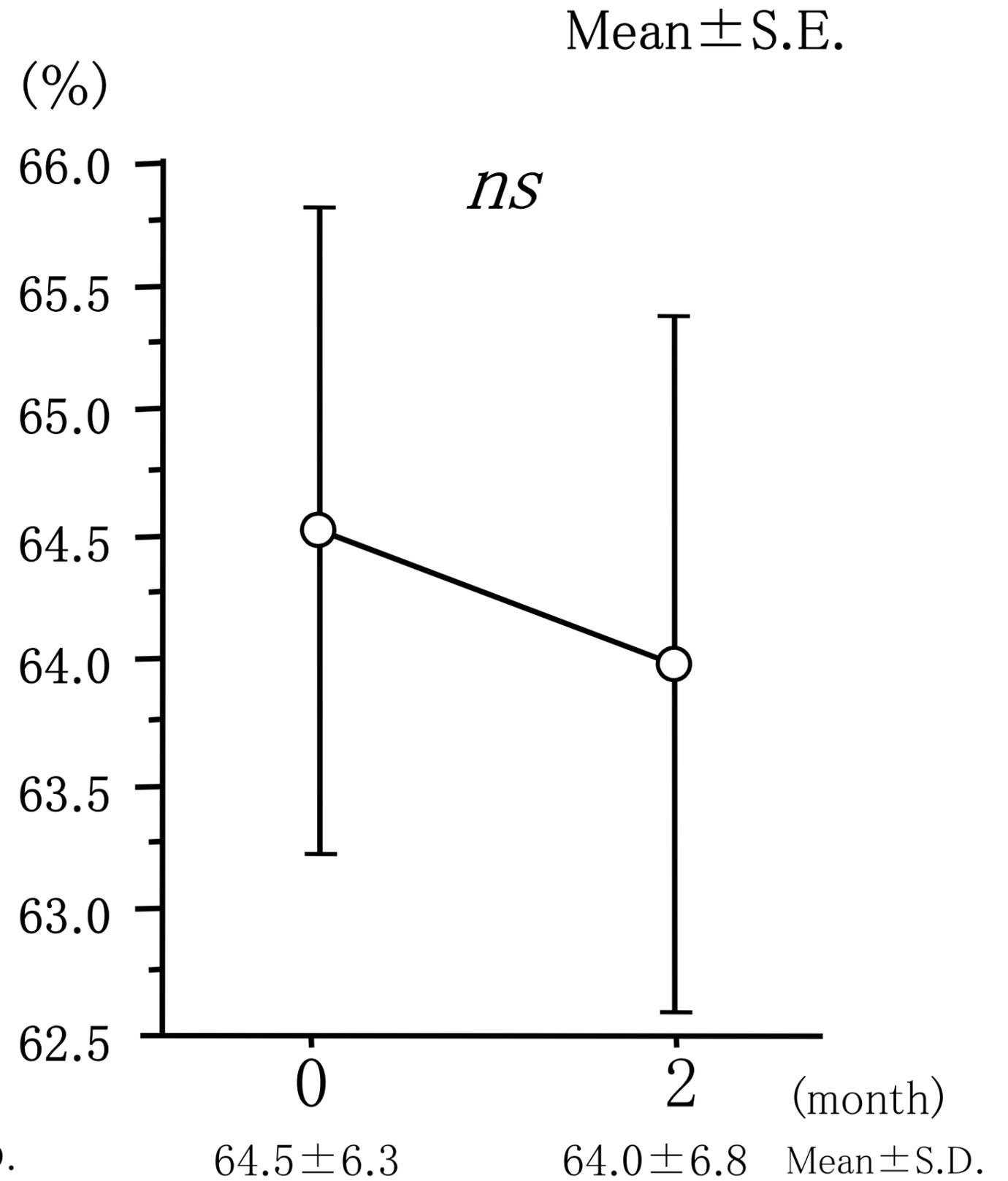
方法

透析膜をTDF-20MV[®]からNVF-21M[®]に切り替え、2ヶ月後の各種臨床データについて比較検討した。なお、統計処理はWilcoxon符号順位検定を用いた。

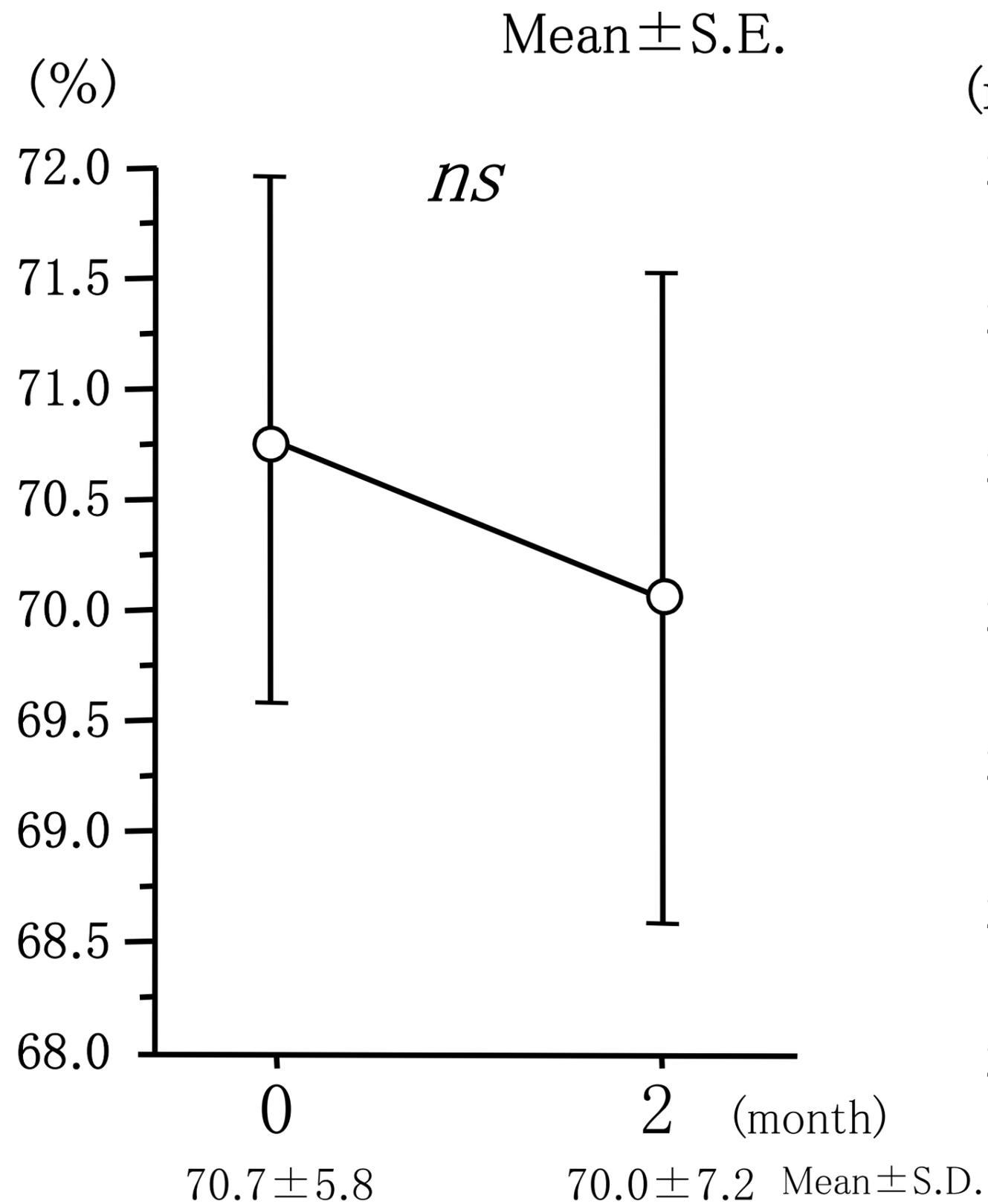
膜変更前後の BUN除去率



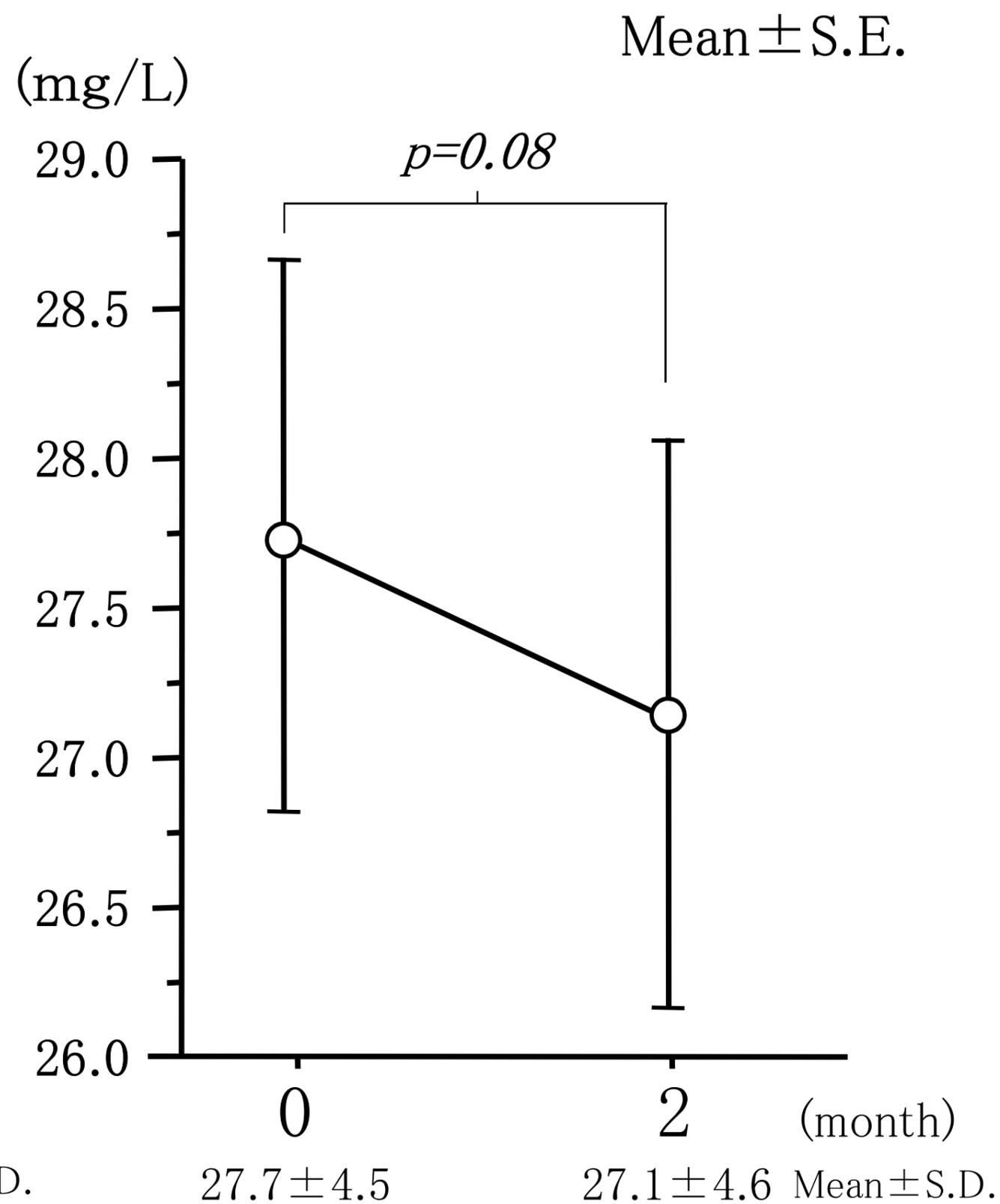
膜変更前後の Cr除去率



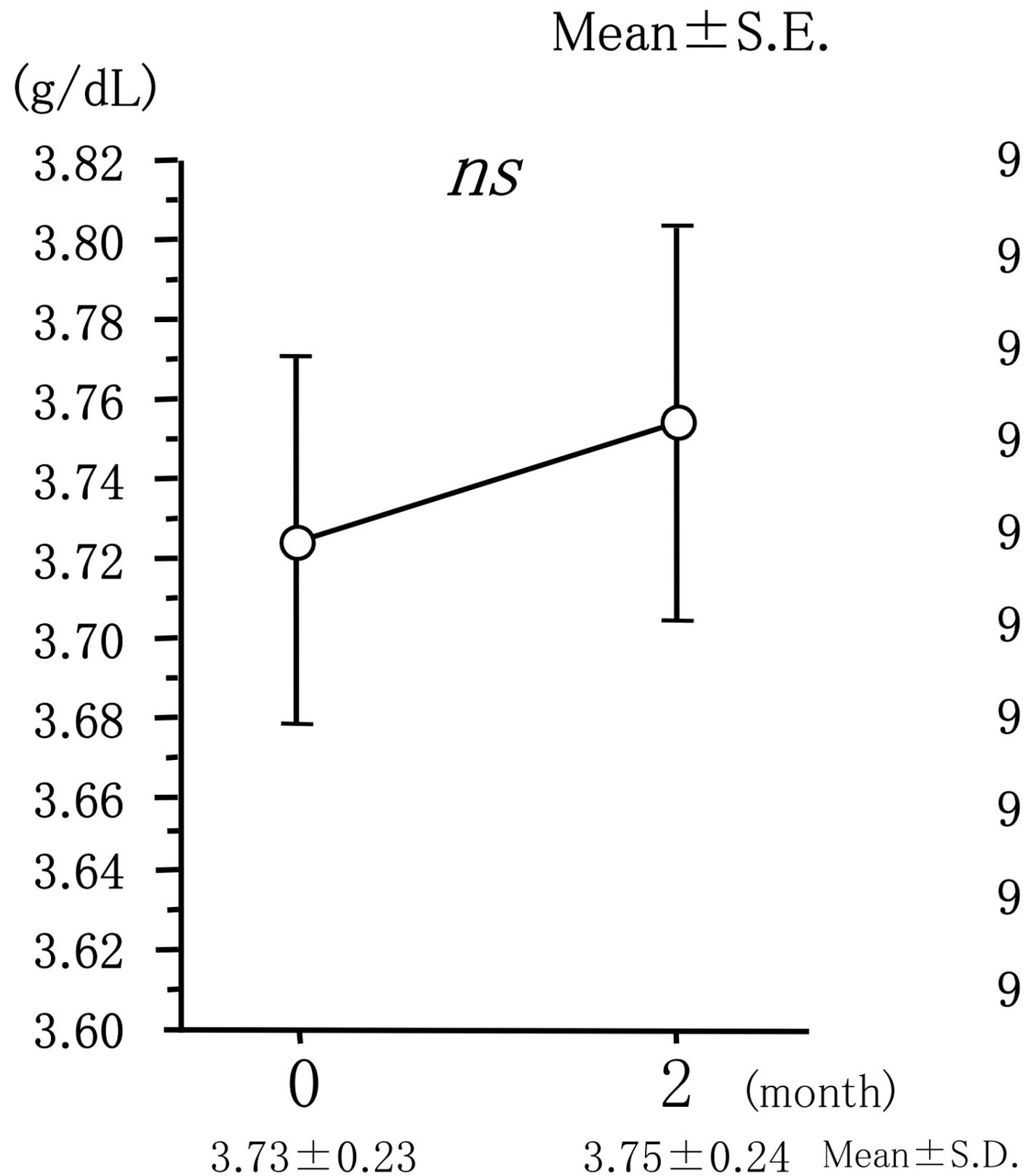
膜変更前後の β 2m除去率



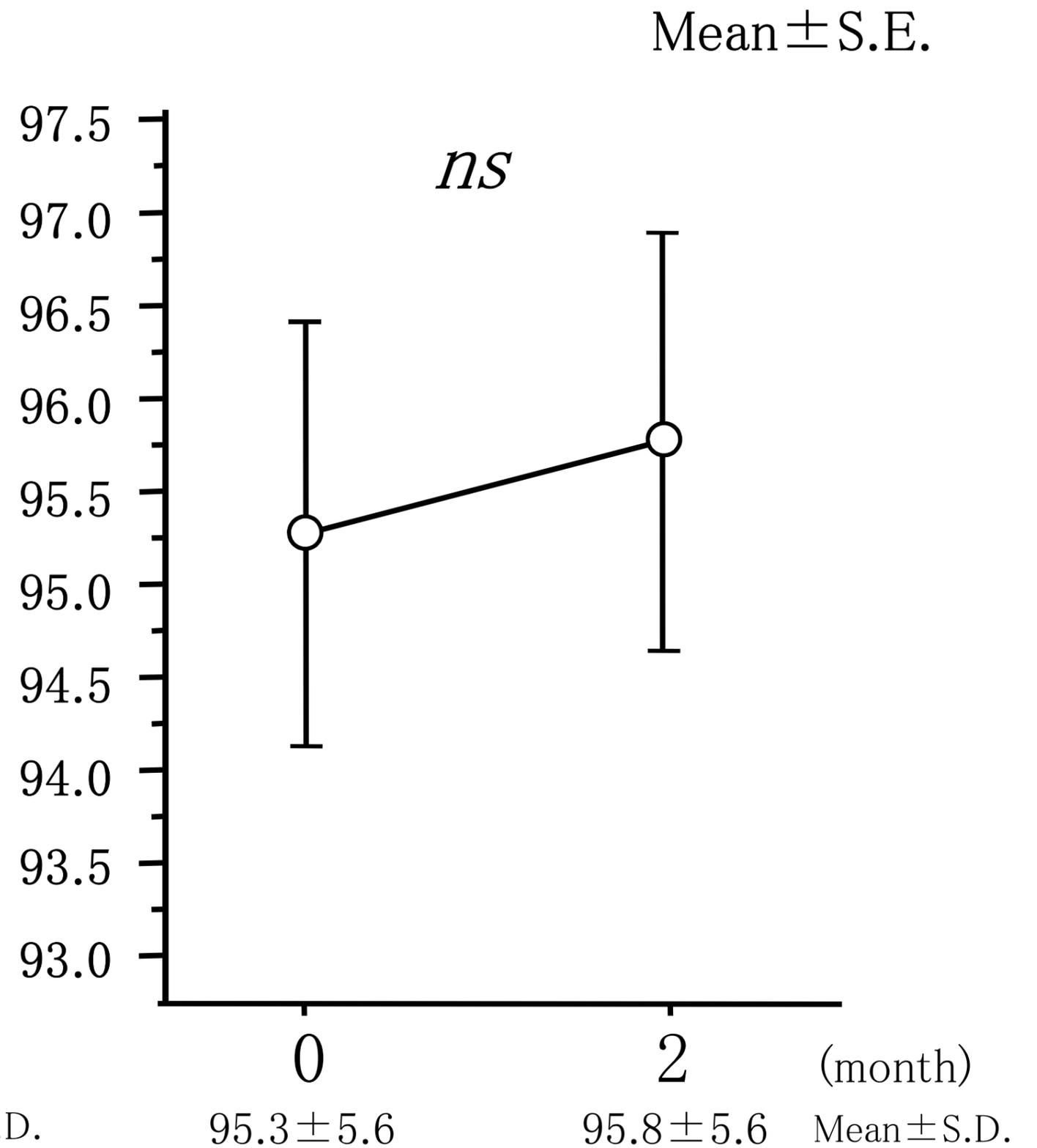
膜変更前後の 週明け透析前 β 2m



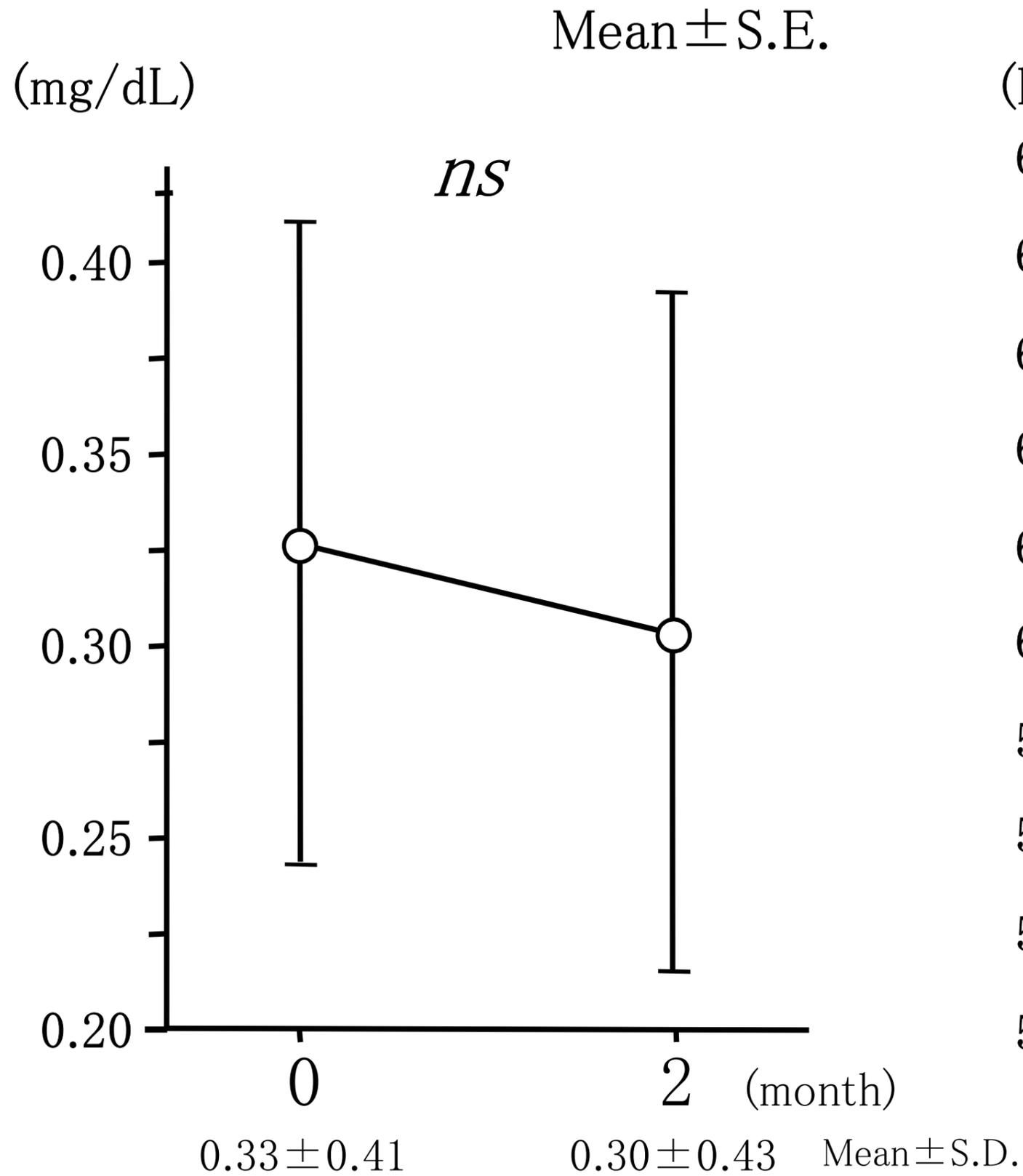
膜変更前後の 血清ALB



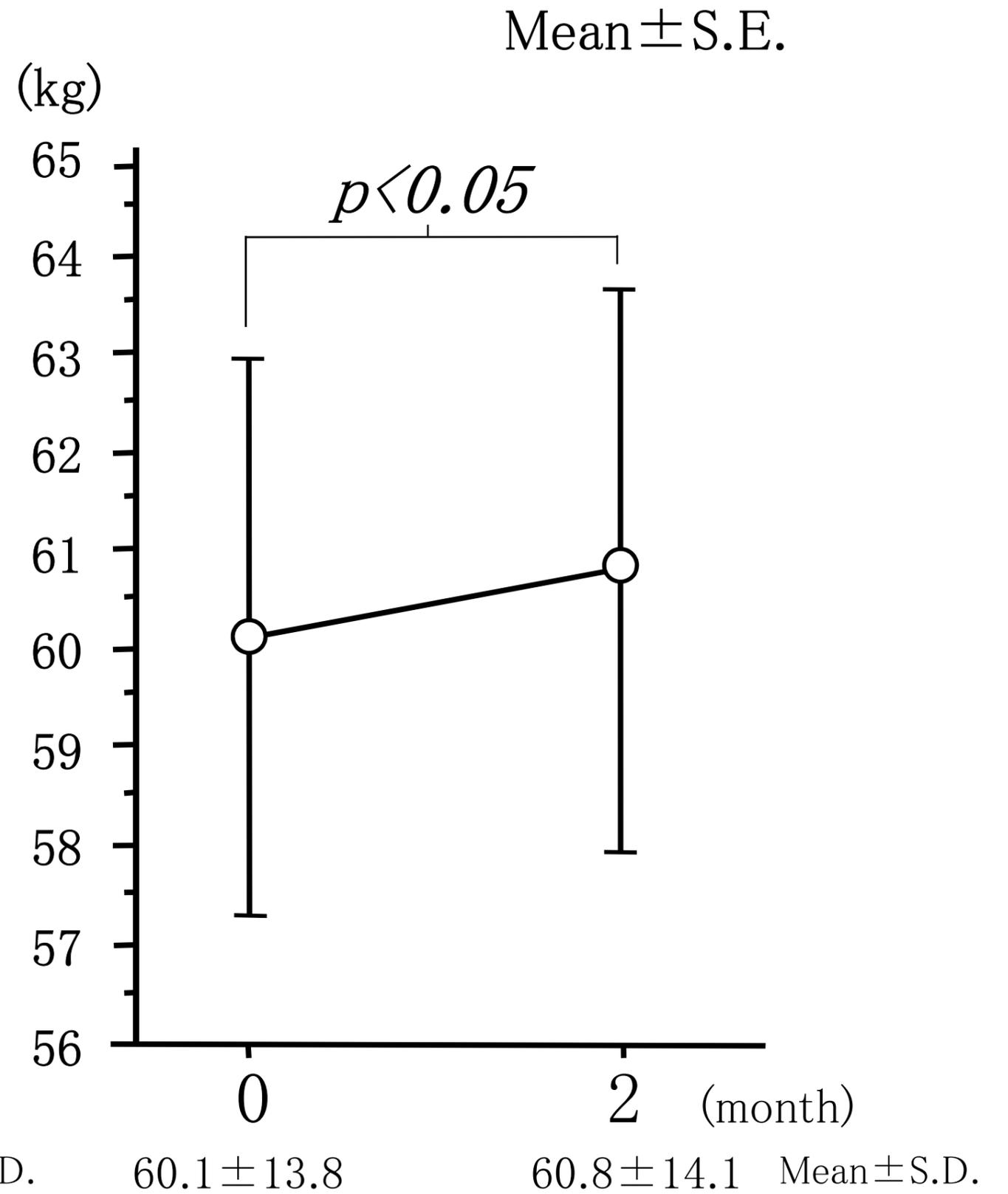
膜変更前後の GNRI



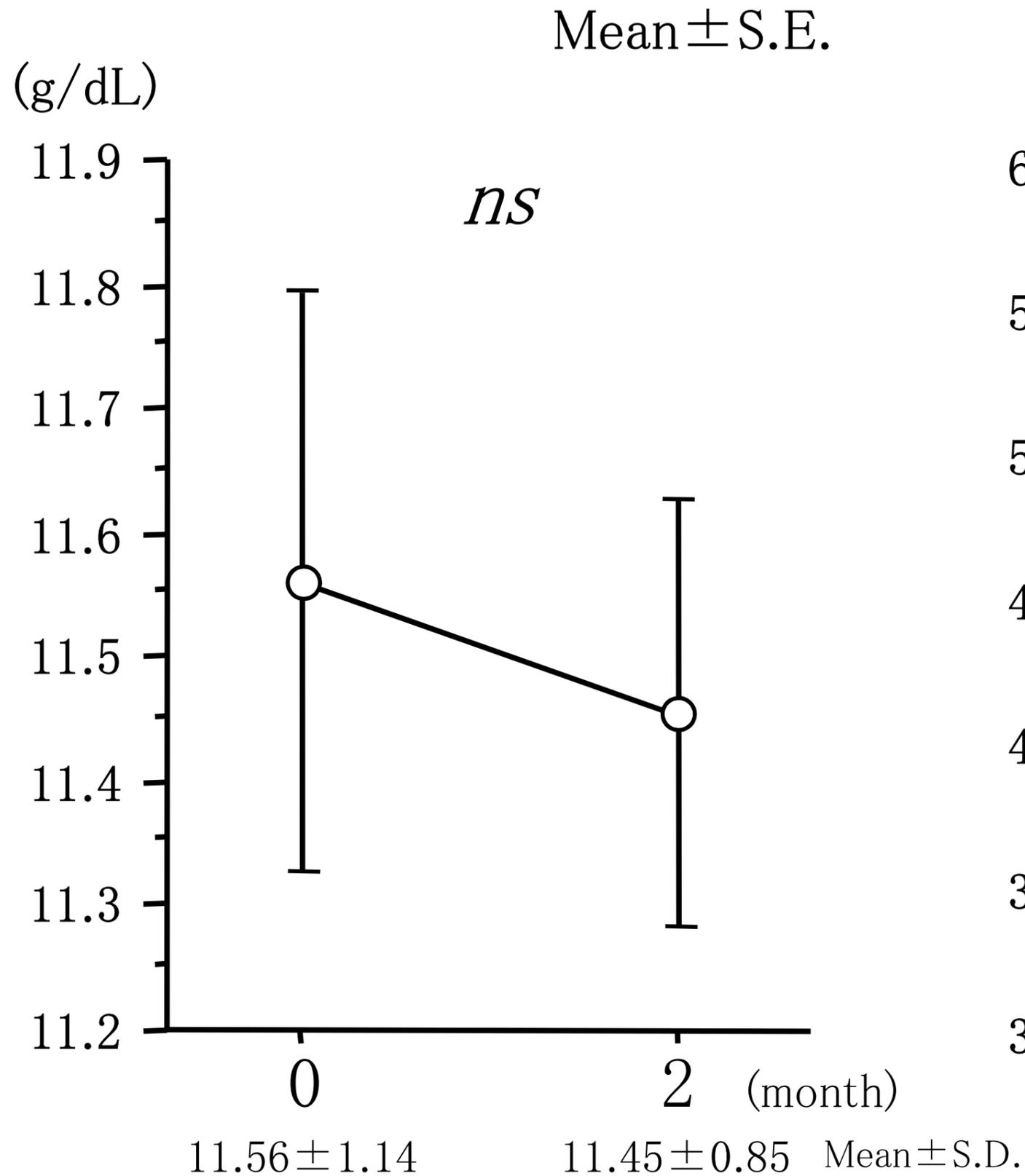
膜変更前後の CRP



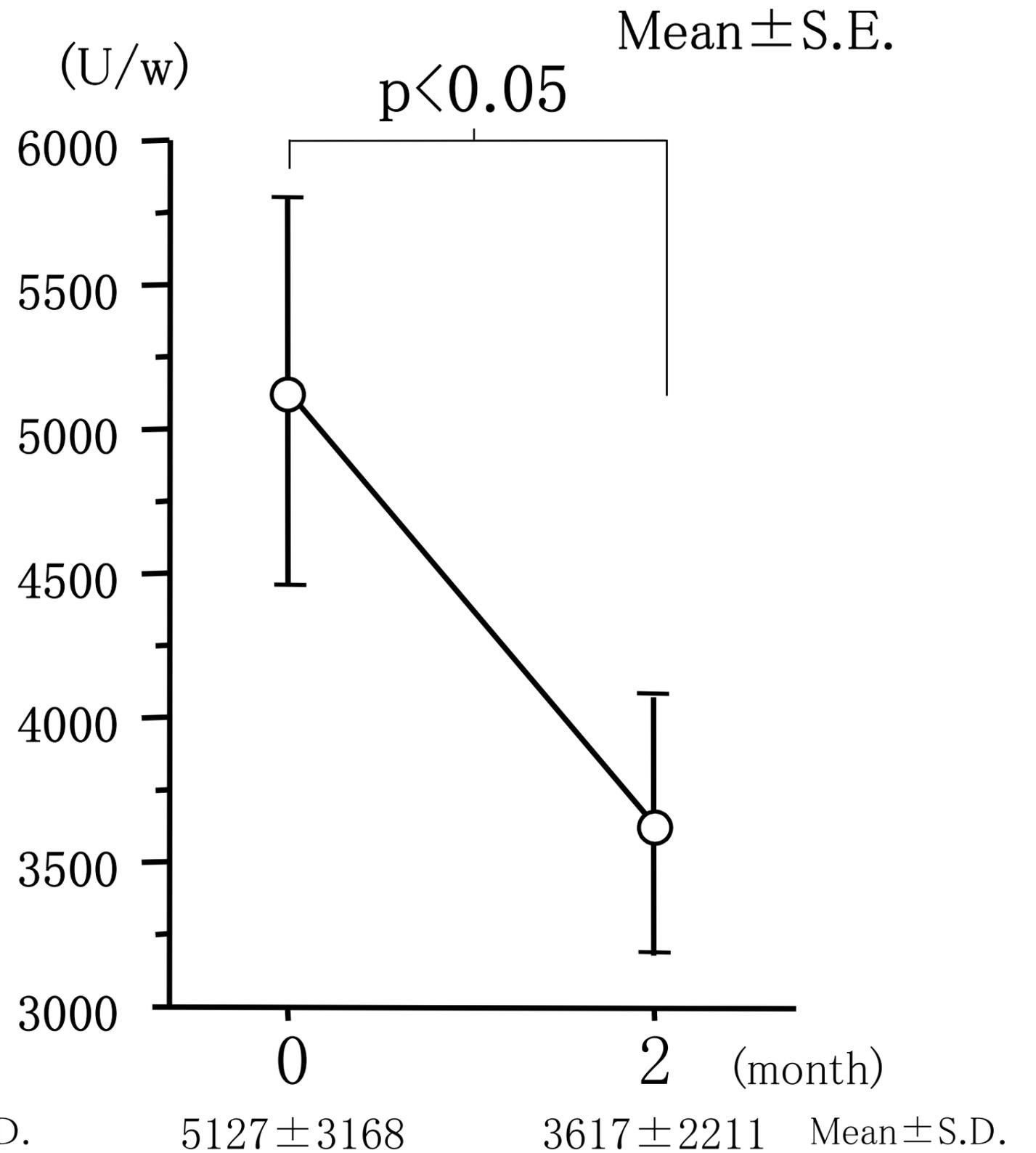
膜変更前後の ドライウエイト



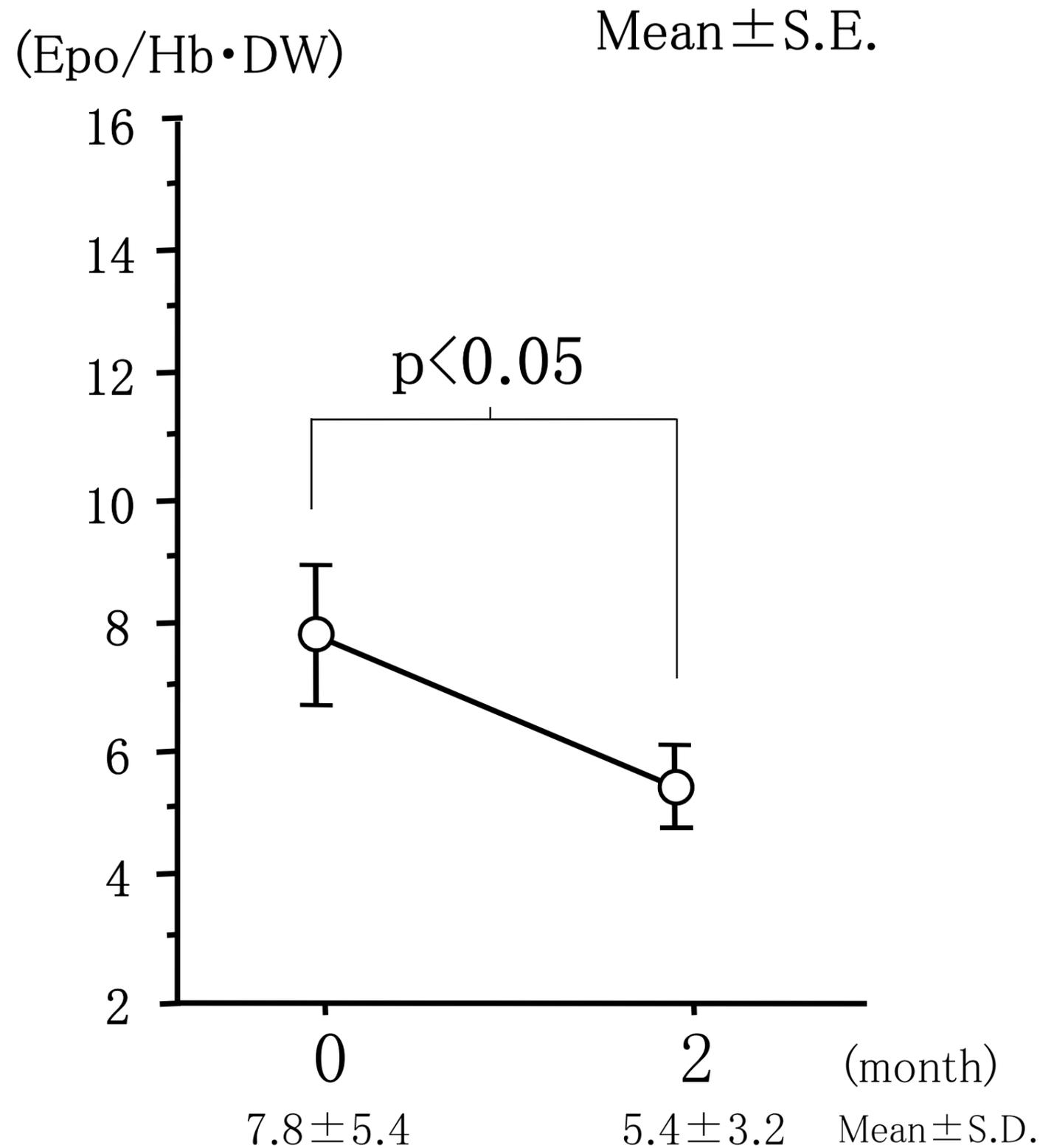
膜変更前後の ヘモグロビン濃度



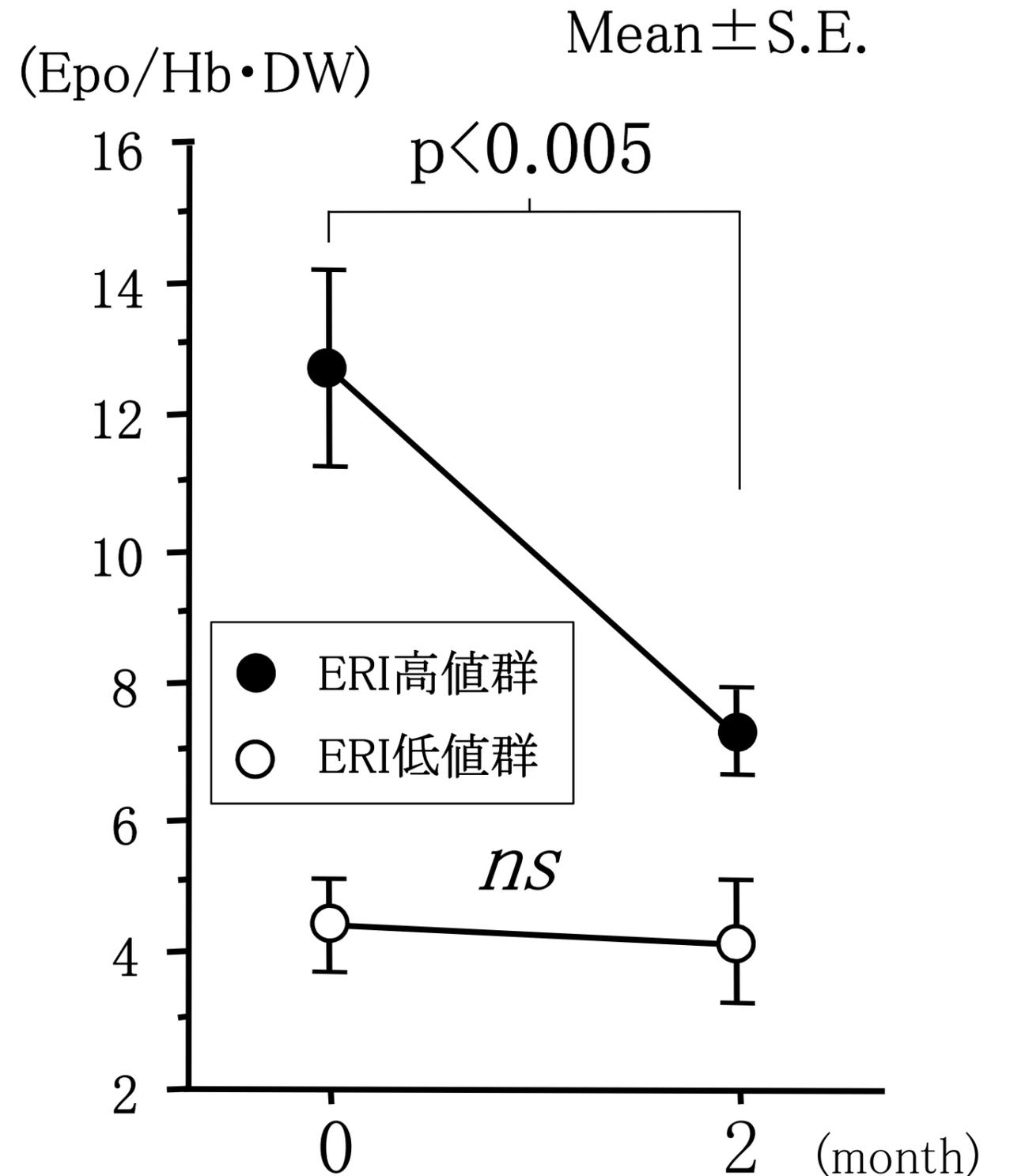
膜変更前後の ESA使用量/週



膜変更前後の ERI(ESA抵抗性指標)



膜変更前後の ERI (ERI中央値で二群化)



結 果

BUN、Cr、 β 2mの除去率、週明け透析前のALB、GNRI、CRP、Hbに有意差は認めなかった。週明け β 2m値は低下傾向を示した。

DW上昇、ESA使用量減少、ERI改善を有意に認めた。ERIの中央値で二群化した検討では、高値群においてのみ有意な改善を認めた。

考 察

両者における主だった溶質除去能の差異は小さいと思われた。ESA減量の機序については不明であるが、NVFは生体適合性の高さから様々な臨床的有用性が期待されており、今後の更なる検討を要す。

日本透析医学会 COI開示

筆頭発表者名： 松下 剛史

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。